

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



2020年1月
宣教カンファレンス&合同ミーティング
静岡県立朝霧野外活動センター

わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。

(ヨハネ十六・七)

復活されたイエス様がそのまま地上に残っておられたら・・・と考えてしまうのは私だけでしょか。イエス様が、「わたしが去って行く」と言われたとき、弟子たちは悲しみました。しかしイエス様が去って行かれたことは、私たちにとって益となることでした。

イエス様が父なる神様のもとに戻られたとき、助け主である聖霊が遣わされました。また、イエス様が父なる神様のとなりの座に着かれたことにより、私たちは父なる神様へ祈ることができるようになりました。それはイエス様がとりなしをしてくださるからです。ですから私たちたちはイエス様の御名によって祈ります。そして、イエス様が去って行かれたことにより、私たちが再び来られるイエス様を待ち望むようになりました。それは私たちが天に備えられた住まいに入る日まで忠実に主のみこころを行うためです。

「わたしがそれだ(エゴーエイミー)」(ヨハネ十八・五)と言われてご自身の神性と権威を表されたイエス様は、今はこの地上におられません。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。」ととりなしの祈りを捧げつつ主の御業を行う者と共にいてください。

古い考え方、新しい考え方 世代間格差への対処

若葉聖書バプテスト教会 牧師 ジェームズ・スミス

※本稿はセミナー時に取り上げることのできなかった内容です



主の働きについて私が教えられたことの一つは、絶えず物事が変化しているということ。教会の会堂のスタイル、服装や髪型、音楽や礼拝プログラムは変わります。その中で決して変わることはない、イエス・キリストご自身を感謝します。

音楽は、今日、多くの牧師の間で話題となっています。多くの教会が音楽や礼拝のスタイルを変えています。若い次世代に伝道する強力な作戦だというわけです。若い人たちはスーツやネクタイを好みません。こうした変化は年配者に圧迫となります。このような変化が教会に起こると、古い世代の方は大抵、なぜ変わらなければならないのかといふかります。彼らは同じ方法を好み、若い世代の方は新しいことを試そうとします。このような考え方の違いは、世界における様々な変化の影響を受けています。多くの国で人々は地方から都会へと移動しています。多くの国で愛国主義が台頭する中、グローバル化も進んでいます。人々は自分の考え方を教会に持ち込みます。これらのことは全て、教会と牧師に多くのストレスを与えます。牧師が変化を強く推せば、古い世代の方々は無視されたと感じるでしょう。教会は自分たちが建てたのだ、だから牧師であるあなたは我々の意向を汲み取るべきだと。もし牧師が変化を拒否すれば、新しい世代の方々は退屈に感じ、牧師は本気で自分たちのことを聞いてくれないと思うでしょう。古い伝統的な考え方か新しい考え方か、どちらに傾くにして教会で育つか、教会生活を長く続ける

かすれば、両方の問題を経験することになります。ですから、これは主の働き人が一考すべきことなのです。私たちは教会を最も神のお心に適った道に導かなければなりません。では、私たちは何をすべきでしょうか？

Ⅰ テモテ五章一〜六節から

一、二節に注目します。明らかに、イエス様は年配の世代だけのために教会を始めたのでも、若い世代のためだけに始めたのでもありません。救いはすべての人に対する神の恵みであり、イエス・キリストを救い主として信じるすべての人は救われます。また、救いは全てのクリスチャンに対する神の贈物です。教会は交わりのため、福音を広めるため、成長するため、共同体として神を礼拝するためにあります。すべての年齢層のすべてのクリスチャンのためにあるのです。ですから、教会はすべて、あらゆる年齢層の方がいて然るべきです。では、年齢の違い、世代間のギャップにどのように対処するでしょうか。

① 古い世代の方々に敬う

クリスチャンの文化は年配者を敬うものです。パウロは教会でどのように適切に振舞うかを教えています。テモテは指導的立場にある者として教会で共に働いていました。ですから彼らとって、全ての人とうまく関わるかを知るのは大切なことでした。彼は若くて、押しが強く、年配者に対して忍耐がなくて、腹を立てそうになる誘惑があったかもしれない。ですからパウロは

彼に年配の男性を厳しく叱らないで自分の父親にするように励まさないとい教えました。つまり、どのように振舞うか気を付けなさいということ。更に年配の女性には母親のように接しなさいと教えています。パウロの要点は、上の世代の方々に敬いなさいということ。ですから、知恵のある牧師は年配者を父や母のように励ますだけでなく、耳を傾け、彼らから知恵をいただこうとします。また、彼らの奉仕に敬意を表し、共に時間を過ごすのです。

② 若い世代の人たちに兄弟として接する

パウロはテモテに、若い人たちに兄弟として等しく接するように指導していません。若い人を自分より下に見るのではなく、同じ兄弟として接するべきです。正直、私自身、若い方々をまだ独り立ちできない、何も知らないとい捉える誘惑があります。牧師として、福音を広め、協力してくれる兄弟を探す傾向があります。しかし、牧師に知恵があれば、若い兄弟を、ただ兄弟として見るはず。彼らも神の働きを担うべきです。訓練し教えるのに時間がかかるかもしれないが、それには計り知れない価値があります。またこれはみことばに適ったことでもあります。若い



訓練し教えるのに時間がかかるかもしれないが、それには計り知れない価値があります。またこれはみことばに適ったことでもあります。若い

方々に兄弟姉妹としてどう接するかという教えは、信仰を次世代に継承する考えの基礎を成します。

③ 世代間ギャップや流行の変化に対処するための提案

古いやり方から新しいやり方への変化は止めることができません。知恵のある牧師は、古い世代の方を敬い、耳を傾け少しづつ物事を変えることでしょう。古いやり方から新しいやり方へ大々的に変えた牧師についての記事を読んだことがあります。この牧師は、自分を支えてくれた年配者たちを褒め、耳を傾けるだけではなく、意見も出してもらいました。また、若い世代に対する重荷を分かち合い、より現代的になるよう教会に変化を加えました。

教会は、若い世代からの提案、成熟した世代からの提案に関わらず、すべての変化は、神のおことばに合った、最も高い義の基準に見合うものであるべきです。音楽や服装を変えるべきだと言うのではありません。実は、私自身は変化があまり好きではありません。牧師が例えば、音楽のスタイルを変える時は、非常に注意深く、ゆつくりと変えるのがよいと思います。また、どんな変化をもたらすのかを気をつけるべきです。変化はゆつくりと、少しづつ加えるとよいと教えられて来ました。

若葉に遣わされたばかりの頃、たくさんの方々が私に導いてください、いろいろと変えてくださいと言って励ましてくださいました。私もそう言われて嬉しくなり、これまでのやり方から新しいやり

方にしてほしいのだと思いました。そこで、いくつかのことを変えました。すぐに、壁にぶつかりました。つまり、皆さんが変えてくださいと言っても、それは必ずしもあなた（牧師）に何かを変えて欲しいという意味ではないのです！気を付けましょう。

わづらわ

そういうわけで、年配の方を敬い、若い方を兄弟姉妹として接することは、古いやり方から新しいやり方に変わる上で基礎となります。地方の方と都会の方の違いに対処する基礎にもなります。教会の全ての人と意思疎通を図ることで、裕福なクリスチャンと貧しいクリスチャンの問題に対処することができます。年上の方を敬い、年下の方を兄弟姉妹として扱うことで敬意を表し励みますので。つまり、イエス・キリストという共通のつながりを覚え、共に前進します。牧師は、誰にも自己中心的な意見を許してはなりません。すべての人が宣教、キリストにある成長といった霊的な目的を目指すように励まされる必要があるのです。



すべてに権威を持つ方の下で

船橋聖書バプテスト教会

柏聖書集会

三澤 隆男

わたしには天においても地においてもすべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテストマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。

(マタイ二八章一八―二〇節)

第一に、私たちはキリストの権威の下に守られています。私たちの今後を決定するのは、環境や時代また人の意向でもありません。「ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つの封印を解くことができます」(黙示録五章五節)とあるように、私たちの主キリストだけが、今後の歴史を開くことが出来ます。その「すべての権威が与えられて」いる方が「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」と保証されました。私たちが左右し、将来を決めるのは、健康の良し悪し、支援の有無、能力や人材また知恵や信仰の大小でもなく、教会の置かれている地域の特徴が伝道の成果を左右するのでもありません。万事を決定するのは、キリストです。私たちが案じることが出来ない、一切をイエス様に委ね信

頼して従って行きましょう。結果は、教会の主、宣教地の主権者であるイエス様が決めてくださいますので、私たちは従うのみです。

第二に、私たちはキリストの福音宣教という光栄ある使命を託されています。御子の犠牲による救いの道も、伝える者がいはじめ、救われる者が起こされます。「聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされるのがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか」(ローマー一〇章一四節)と、福音を宣べ伝える者の働きが強調されています。福音を語る者の光栄ある立場を、預言者は「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と感嘆し、パウロは、「私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの方けたところを満たしているのです」(コロサイ一章二四節)とまで表現しています。

第三に、福音を伝える責務を果たすための務めがあります。当然のことながら伝道者は伝える福音への理解を深める必要があります。パウロは、「万物を創造した神のうちに世々隠されていた奥義の実現がどのようなものかを、すべての人に明らかにするため」、またキリストの愛の「広さ、長さ、高さ、深さがどれほどあるかを理解する力を持つように」(エペソ三章九、一八節)努めています。福音への知的探求と福音の力と恵みに生きる信仰の冒険も欠かせません。

私たちの主は、悪霊から解放されたゲ

ラサの男に、「主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい」(マルコ五章一九節)と、自分の体験を証するよう命じておられます。神の愛と十字架の恵み、また聖霊の力を聖書に教えられ、喜んで語りたいものです。

さらにパウロは「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです…すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。私は福音のためにあらゆることをしています」(Iコリント六章一九〜二三節)と記しています。

伝道者は、相手の置かれている状況と相手の思いへの理解を深め、相手の魂に届くよう愛をもって真理を語る責任があります。この光栄ある困難な務めに、この群れに在って、互いに尊敬し協力し合い、励みたいものです。すべてを支配しておられる主キリストの下で。

JBBBF 71年目の節目に立ち

名古屋聖書バプテスト教会 国内宣教師

上田 晃

私たちが滅び失せなかったのは主の恵みによる。主の哀れみは尽きないからだ。

それは朝毎に新しい。

(哀歌三章二二〜二三節)

今回、日本宣教70年を顧み、時間をかけて、先生方のご意見が交わされました。大きく分けて、国内宣教の鈍化、神学校が今、直面している問題。日本バイブル・バプテスト・フェローシップの現状と展望などについて、率直な意見などがありました。

70年前にアメリカの保守的なバプテスト教会から祈られ遣わされた宣教師方は順を経て4家族が、敗戦間もない日本に來られ、千葉県に拠点を置いて開拓伝道が始まったと聞いております。結果、千葉、幕張、太田、静岡にそれぞれの宣教師が開拓を始められました。そして、この4教会を基本財産として宗教法人の認可を国より取得されました。

戦後間もない教会には大勢の人が集まり賑わいました。千葉も静岡も大きな講堂のような会堂でした。主なる神は、初期段階で神学校を創立、仮校舎は幕張教会の半地下の部屋と手造りのガレージでした。一期生は確か8名、すでに男性の先生方は主の身に召されました。私は五期生で、幕張の仮校舎から、千葉市松波町の新校舎に移った最初の学生です。主が初期の宣教師方に神学校創設のビジョンを与えられたことはどんなに感謝しても感謝しすぎることはありません。そこから、300名近い献身者が巣立ち、4か所の教会から始まったJBBBFは、今や、100近くの教会、伝道所が国内

外に伝道展開。教会が誕生しています。

神学校は、その後、千葉市天台、そして今は、軽井沢に、と発展的に移転しました。まず、主のお祈りに感謝し、「主がよくしてくださったことを何一つ忘れないように…」しなければなりません。また先人たちに学び、主に感謝しましょう。加えて、諸教会と牧師先生方の祈りと、大きな献金支援をいただいで今ある恵みに感謝しあいたいと思います。幾つもの試練を乗り越えて、今も主は顧みてくださっておられます。私たちも初めの信仰と初めの愛を基盤に立ち時代の変化とともに今、解決しなければならぬ諸問題に、取り組み適切な答えを出さなければなりません。そのためにも胸襟を開き、話し合い、祈りあい、協力し合って、聖書に基づく具体的なビジョンを持って、主の御心にかなう71年目の新しい一步を踏み出す必要を覚えます。



1月に行われた宣教カンファレンス&合同ミーティングのために、お祈りとご支援をいただき心より感謝申し上げます。カンファレンスは3名の先生方を通して、恵まれた御言葉と証をいただきました。そして初めての試みであった合同ミーティングでは、十分に要望にお応えできなかったと思いますが、様々な意見や提案を共有できたと思います。ぜひ今回だけで忘れてしまうことがなく実現しなければならぬ事柄は実現できるように引き続きお祈りをお願いいたします。

宣教カンファレンス&合同ミーティング会計報告

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
参加費	¥0	施設利用料(シーツ代金)	¥105,040
集会献金	¥75,029	食事代	¥126,130
指定献金(2019年分/4件)	¥214,000	ホテル代(5名分)	¥28,600
指定献金(2020年分/5件)	¥61,000	講師謝礼	¥60,000
一般会計より補填	¥179,401	講師交通費	¥14,600
		交通費補助	¥161,260
		その他	¥33,800
収入合計	¥629,430	支出合計	¥629,430



献金振込先(郵便振込)

00140・2・654375

JBBBF国内宣教委員会